

ここに注目！ 地域ニーズへの対応によるコミュニティ再生と効果的な
まちなちの魅力発信により、中心市街地の活性化を促進。



ポイント

昭和30年に戦災復興のシンボルとして再建された「泉町会館」を拠点に、個店と地域コミュニティとを結ぶ事業に取り組んでおり、特に、地域住民に地元の新鮮な食材を提供するため、10年以上前から「ファーマーズ・マーケット(新鮮市)」を開催している。

また、当商店街が中心となって「水戸バー・バル・バル」と題する飲み歩きイベントを実施しているほか、コミュニティペーパー「IZM(イズム)」の発行などを通じ、中心市街地全体の魅力発信にも積極的に取り組んでいる。

[商店街概要及び取組の背景]

求められる地域貢献とまちなちの魅力発信

水戸駅北口から西北方向に約1.2kmの距離に位置し、その商業集積から、水戸市を代表する商店街の一つであるとともに、「水戸芸術館」に隣接するなど、高い文化性を有する地区でもある。また、百貨店などを含む大型店が隣接し、最寄品に加え買い回り品が多い商店街である一方、近年のマンション建設に伴い、居住人口が増加するなか、地域密着型の商店街としてのさらなる貢献も求められている。

更に、中心市街地郊外への大型ショッピングモール出店に伴う通行量の減少や、東日本大震災の影響による消費の落ち込みがみられるなか、中心市街地への来街機会を創出するため、まち全体の魅力を効果的に発信していくことが求められている。

[取組の概要・効果]

Plan・Do

コミュニティ再生と来街機会の創出

生鮮食品などが購入できる店舗が中心市街地内で減少し、地域住民の多くが日常の買物に不便を感じて



商店街のシンボル「泉町会館」

いるなか、出来るだけ気軽に新鮮野菜を購入していただけるよう、近隣の生産農家の協力のもと、「泉町会館」において「ファーマーズ・マーケット」を継続的に開催し、近隣住民に親しまれている。

また、中心市街地全体のまちなちの魅力を知ってもらう機会として、当商店街が中心となって「水戸バー・バル・バル」と題するドリンクラリー形式のイベントを実施しているほか、コミュニティペーパー「IZM」の発行、まちゼミ「まちカル」の開催を通じて、まちなちの魅力を発信、来街機会の創出にも寄与している。

[効果の評価と改善策の実施等]

Check・Action

地域ニーズへのさらなる対応

住民アンケートの結果から得られた地域ニーズ(生鮮食品店、地産地消の店)に対応するため、当商店街が中心となり、「食のモデル地域構築計画」を策定。今後、「ファーマーズ・マーケット」の常設化を図るとともに、ボランティアのお母さんによる地元農産品を利用した家庭料理の提供、ワイナリー機能の付加など、県内農産品の受発信拠点として、「泉町会館」の機能拡充を図っていくほか、地産地消の「水戸バー・バル・バル」等を行っていく予定である。

また、街なかでゆっくり過ごせる場所として、市民図

書館・カルチャースクール・コミュニティカフェ・インフォメーション機能を備えたコミュニティ施設の設置に取り組んでいる。

[実施体制]

幅広い主体の連携による取組の推進

当商店街を含む水戸市中心市街地エリアにおいては、民間レベルのボランティア(商業者、若手経営者、建築家、行政職員等)で構成する「水戸市上市朝会」が当商店街の若手を主要メンバーとして活動しており、飲み歩きイベントの開催やコミュニティペーパー「IZM」での連携など、商店街の枠を越えて、中心市街地全体の活性化に向けて取り組んでいる。

また、「食のモデル地域構築計画」(農林水産省認定)については、当商店街が事務局となって、他団体(水戸市、商工会議所、生産農家、子育て支援NPO法人等)と実行協議会を組織するなど、幅広い連携体制の構築を図りながら取組を進めている。

基本データ

所在地：茨城県水戸市泉町二丁目

会員数：43名

店舗数：47店舗

関連URL：<http://www.izumi2.com/>



住民に親しまれている「ファーマーズ・マーケット」



キーパーソン

泉町二丁目商店街振興組合
理事長 高野 健治

街全体を通して進める「商店街活性化」

水戸市の商店街は、水戸駅北口から伸びる国道(片側2車線)直線2kmの間に、19商店街がひしめき合っています。泉町二丁目商店街はその中央にあり、百貨店や文化施設とも隣接した恵まれた場所に位置します。

しかし、商店街の衰退や商業者の高齢化、郊外型商業施設の進出は他地域と同様であり、東日本大震災の被害も甚大で、近年は衰退の一途を辿って参りました。

そんななか、弊組合では5年前から世代交代を進めてきました。実質的な運営を若手世代に任せて頂いたことで、役員全体が若返り、これまでになかったような活動ができるようになってきています。

さらには、組合内だけでなく近隣商店街や街中の個店、行政との接点を強くし、協力や連携をすることで、

我々だけでは進められないような事業を推進する機会が増えました。いろいろな立場やスタンスの方々との協力や連携が新しい考え方を生み、新たな活性化策を模索・推進するきっかけにもなっています。

地域とも一丸となって連携する「街づくり」

もともと商店街とは、利便性のある場所に人が暮らすようになり、集落ができ、流通が必要になってきたものだと思います。そう考えると、商店街が地域コミュニティと連携していくことは、昔から脈々と続く必須事項なのだということが理解できます。

しかし近年の商店街は、経済を優先し我が利益を追求するあまり、元来の考え方を見失ってきた気がします。現在の自分達の力だけでは到底「活性化」や「街づくり」は成功し得ないでしょう。ですから我々は、地域コミュニティの活動や事業に参加するとともに、我々の考え方や活動をより多くの住民に理解いただくことを心掛け、地域と協働した街づくりを目指しています。

今後、地域コミュニティと商店街が交流できるコミュニティセンターや、地域のニーズに応えた生鮮品や地産地消品の販売施設を開設するとともに、地域の方々と心から交流できる機会や場所を多く設けることで、地域全体が一丸となった街づくりに取り組んでいきます。